

「浅学菲才」の精神で学び、常に1番を目指す

有限会社山本マイクロシステムセンター 北村一三さん

新聞・図書・古文書等の貴重な資料のマイクロフィルム化やマイクロフィルム・図面・写真等のデジタルデータ化を手掛ける有限会社山本マイクロシステムセンター。写真機(カメラ)店の一事業部から分離させた同社を、公官庁を中心に絶大な信頼を誇るスペシャリスト集団へと率いてきた代表取締役会長・北村一三さんを訪ねた。

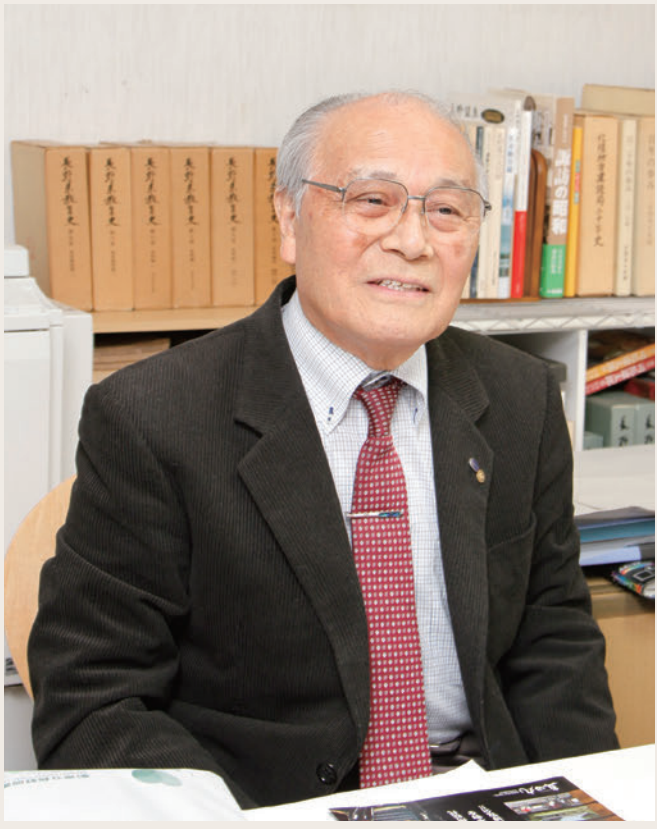


■ 中学卒業後、市内の時計店へ就職

私が初めて社会に出たのは、昭和29(1954)年の春でした。信濃町の中学校を卒業し、長野市の老舗時計店に就職。しかし、一ヵ月半足らずで店の一方的な事情で退職を迫られ、すぐに失業も経験しました。当初は「仕方のないこと」と受け止めていましたが、しばらくして理不尽さや不遇に憤りを感じたのを覚えています。

■ 苦境を乗り越え、学びを得る

失業後、別の生き方に目を向けてみたところ、名古屋市の夜間工業高校への合格と学費を負担してくれるという大手機械工場の内定を獲得しました。しかし、当時私以外に男手がなかった家を離れることができず、結局名古屋行きは断念。自ら職業安定所へ出向き、興味・関心のあった機械に触れられる仕事を探して、「山本写真機店」と出合ったのです。当時はまだ住込の徒弟制度が残る時代でしたから、朝から晩まで働きました。ただし、写真機の修理術を学んだり実際に担当させてもらえるという期待も虚しく、何年間も店頭での接客・販売を担当しました。おかげで、商売の厳しさとコツ、商人のあるべき姿とは何かを学ぶことができたのだと思います。



■ 自己を表す四字熟語を胸に

これまで、どんな状況に置かれても、どのような立場にあっても、私は何事においても常に1番を目指す姿勢を貫いてきました。時計店で働いた時も、写真機店で店頭に立っていた頃も、そして現在もまったく変わっていません。それは私が自身を「浅学菲才」な人間と捉えているからです。私は写真短期大学の通信講座や写真専門雑誌などで勉強。また商店・会社経営などのセミナーには機会毎に参加させて貰いました。(株)山本写真機店 会長 山本眞一郎氏には常に商店経営、人生哲学を学び、営業部長や店長を任命され、常に新しい事に一緒にチャレンジできた事が恵まれた環境だと思います。これが今の弊社の経営基礎になっています。私は「私立山本大学」で学んだと話しています(笑)



※浅学菲才(せんがくひさい)・・・知識や学びの経験が浅く才能にかけていること

■ アンテナを高く張り、人と関わろう

1番を目指しながら特に大切にしてきたのは、人との出会いとつながりです。アンテナを高く張り、物・事・人に対して敏感になること。出会った方々から学べることはすべて学び、与えていただく未知の世界へのきっかけを生かすこと。どんな小さな疑問も、納得するまで追究・探究すること。それが私の人生の核だと思います。

「年々やりたいこと、挑戦してみたいことが増えている気がします。きっと、経験を積みば積む程に、何事に対してもアプローチ方法が増えて、独自の工夫が凝らせるようになるからでしょうか」と、笑顔で語ってくださった北村さん。謙虚かつ貪欲に学ぶ姿勢がパワーの源だ。

北村一三(きたむら・いちみ)
有限会社山本マイクロセンター
代表取締役会長
株式会社山本写真機店
取締役相談役

上水内郡信濃町出身、長野市在住。
3つのカメラクラブに所属し、写真展を開催したり講座の講師を務めたりと精力的に活動中。

